

平成28年度 第1回 宝塚市立図書館協議会 会議録

1 開催日時及び場所

平成28年7月29日（金） 14時～16時
宝塚市立中央図書館 研修室

2 出席者

委員（8名） 梓委員、柳委員、中委員、川島委員、石丸委員、平松委員
宗川委員、野田委員
事務局（10名） 社会教育部長（立花部長）
中央図書館（森館長、藤野係長、近藤係長、花村係長、
西川係長、粟井）
西図書館（西田館長、田野係長、藏野係長）

3 傍聴者 なし

4 協議経過等

〔1〕委員委嘱辞令交付

- ・人事異動等による辞職申出に伴い、新たに委員3名〔川島委員（学校教育の関係者）、平松委員（学校教育の関係者）、宗川委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）〕の委嘱を行なった。
- ・任期については、前任者の残任期間で、平成29年6月30日までです。

〔2〕開会あいさつ

（中央図書館長）

- ・皆様には、いつも図書館運営にご協力いただき、また、貴重な意見をいただき、ありがとうございます。
- ・図書館サービス向上計画について、関係機関や図書館協議会のご意見を踏まえて、今回、修正版が完成しましたので、議事の中で説明させていただきます。
なお、この計画は、今後求められる図書館の姿（6つの基本目標）に向かって、図書館職員の高い意識や覚悟を表しているものと認識しています。

〔3〕事務局職員紹介

〔4〕議事

(委員長)

- ・議事の進行について、次のとおり、調整させていただきますのでよろしくお願いします。
- ・まず、『(1)「平成27年度事業報告について」』を審議し、次に、『(2)「サービス向上計画(修正版)の最終案」について』と、『(3)「社会教育委員の会議からの答申」と「サービス向上計画(修正版)最終案」との比較について』を、一括審議したいと思います。
- ・次に、『(4)利用者の意見等について』と、『(5)情報提供について』を、一括して協議したいと思います。
- ・その後、『(6)「平成28年度事業について」』、『(7)「意見交換等」』、『(8)「次回の開催について」』の順で議事を進めたいと思います。

(1) 平成27年度事業報告について

(事務局) (説明)

- 平成28年版 宝塚市立図書館年報(別冊)について
(事務局より、ポイントを絞った形で説明)

(目次について)

- ・目次についてですが、昨年度まで、「活動状況」として、11個の項目を含めて掲載しておりましたが、今回、個々に項目を独立させて、整理しています。
- ・「7. 予約」、「8. レファレンス」、「9. 相互貸借」、「11. 聖光文庫」、「12. インターネット端末利用」、「13. 複写サービス」、「14. 視聴覚サービス」、「15. 行事・講演会・講座」、「16. 障がい者サービス」、「18. 展示」、「19. 研究会・研修会」として新たに整理しています。
- ・掲載内容としては、昨年度とほぼ同じ内容となっていますが、「17. 実習・職場体験等の受入」は、今年度の追加項目となっています。なお、昨年度掲載していた「利用者満足度調査」の項目については、調査の時期を3年に1回としていますので、今回の年報にはあがりません。

(最近の動きについて) (P5) (以下、図書館年報のページを表示)

- ・「沿革」については、平成28年5月までを記載しております。
- ・昨年度の年報では、平成27年6月、「定期休館日(水曜日・館内整理日)の予約本の受け渡しを開始」まで記載しておりましたので、それ以降を説明します。
- ・講座関係についてですが、平成27年11月には、「市民のための現代文学講座」、12月には、「第4回聖光文庫文化講座」、「第5回読書講演会」(講師：高橋源一郎氏)を開催しました。
- ・平成28年2月には、月見山2丁目の移動図書館への巡回を休止しました。

- ・平成28年3月には、すみれが丘1丁目のラ・ビスタ宝塚管理センター内に返却用ブックポストを設置しました。
- ・また、3月には、年間貸出冊数が200万冊を超えました。なお、平成8年3月には、100万冊を超えていますので、20年間で倍増した形になります。
- ・平成28年4月には、中山台分室の土曜日・日曜日の昼45分の休憩（午後0時から0時45分）をなくし、午前10時30分～午後5時までの開室としました。
- ・平成28年5月には、「宝塚市立図書館サービス向上計画」（平成22年10月策定）の修正版を策定しました。

（図書館の組織〔平成28年4月現在〕について）（P8）

- ・人的体制については、中央図書館では昨年度と変更はありません。
- ・西図書館では、庶務担当の係長が1名増となっており、庶務担当の2名のうち1名がアルバイト職員に変わっています。
- ・なお、館長は両館とも再任用職員となっています。

（分室について）（P10）

- ・中山台分室については、平成28年4月より、土曜日・日曜日の開室時間に関して、昼の休憩時間45分（午後0時～午後0時45分）も開室することとし、午前10時30分から午後5時までの開室としました。これにより、中山台分室の1週間の開室時間は、週4日〔月曜・木曜・土曜・日曜〕で19時間30分となりますが、山本南分室の1週間の開室時間（週5日〔月曜・火曜・木曜・土曜・日曜〕）の32時間30分と比較すると、山本南分室の開室時間の60%となっています。
- ・なお、山本南分室については、現在、平日は午後からの開室ですが、平日の午前も開室できないかという議会での質問もあり、今後検討したいと思っています。

（蔵書数について）（P12～P13）

- ・蔵書数については、平成27年度末現在で、全館合計が64万9,383冊です。平成26年度末と比較して、前年比9,649冊（1.5%）の増となっています。なお、この蔵書数の合計には、中央図書館の「聖光文庫」の蔵書数は含まれていません。
- ・平成27年度の購入冊数は2万9千冊余りですが、収納スペースの関係もあり、一定の整理も行っており、結果として、9千冊余の増となっています。

（雑誌について）（P13）

- ・雑誌については、中央図書館が105件（前年比1件増）、西図書館が140件（前年比2件減）となっており、西図書館の方が35件多くなっています。
- ・詳細については、P44～P45をご覧ください。

(聖光文庫について) (P 14)

- ・聖光文庫については、中央図書館の一室に設置されており、清荒神清澄寺のご厚意により、同寺境内にある鉄斎美術館の入館料で購入された美術関係のご寄贈を受け設立されました。平成27年度末で、資料数としては15,228点であり、前年度と比較して213点の増となっています。

(利用券登録について) (P 15)

- ・利用券登録については、本市の場合は、「過去3年間に利用のあった登録者数」を基準としています。
- ・市内在住者が54,406人、阪神間(7市1町)の相互利用者が4,333人、その他宝塚市への在勤・在学者が233人、合計58,972人で、前年比83人増となっています。
- ・登録者数の多い年代としては、40代が11,135人、小学生が7,584人、30代が7,427人の順になっています。
- ・「市内在住登録者数」54,406人を、「人口」224,653人で割ると、「市民登録率」が、24.2%で、前年比0.3%増となっています。
- ・次に、「広域利用による貸出登録者数」についてですが、阪神間7市1町の住民は相互に利用できる形になっております。
- ・表を縦に見て、宝塚市民22万人余のうち、合計47,355人(約21%)が、阪神間の他市町に登録しており、そのうち、35,739人(75%)が「川西市立図書館」に登録しています。なお、川西市への登録の統計が、これまでの利用券登録が累積した形となっているので、実際は、もう少し低い数値ではないかと思われます。
- ・本市と同じ様な傾向は、川西市民15万人余のうち約20%の30,855人が他市町に登録しており、そのうち、28,258人(87%)が「猪名川町立図書館」に登録しています。
- ・また、表を横に見て、宝塚市立図書館においては、他市町住民の登録が合計4,333人あり、そのうち西宮市民が2,704人(62%)となっております。

(個人貸出について) (P 16~P 18)

- ・個人への貸出冊数は、年間合計202万1,420冊となっており、図書館別に見ますと、中央図書館が78万8,543冊(前年比1万9,889冊[2.6%]の増)に対して、西図書館が83万8,730冊(前年比2万2,588冊[2.8%]の増)で、西図書館のほうが5万187冊多くなっています。これは、西図書館の方には、西公民館と共用ですが、無料駐車場が設置されていることによる部分もあるのではないかと考えています。

- ・また、中山台分室は11万2,220冊（前年比3,918冊〔3.6%〕増）、山本南分室は21万6,377冊（前年比8,692冊〔4.2%〕増）となっています。
- ・移動図書館は6万5,550冊（前年比1,711冊〔2.5%〕減）となっていますが、この数値は、中山台分室の貸出冊数の約58%になっています。なお、移動図書館の平成27年度の貸出冊数を、5年前の平成23年度の7万3,517冊と比較すると、10%減となっています。

（移動図書館すみれ号について）（P24）

- ・移動図書館については、現在24箇所のステーションを2週間に1回（年間25回程度）巡回しております。（月曜と週末の金曜・土曜・日曜ごとのコースによる。）
- ・なお、2016年2月より、月見山2丁目のステーションを休止していますが、今回の統計には、それまでの巡回分をあげています。
- ・年間貸出冊数の合計は6万5千冊余ですが、利用状況は、ステーションによってばらつきがあります。
- ・1回あたりの貸出人数が多い所を見ると、「すみれガ丘中央公園」（6番）が80.6人、「ラヴェール宝塚東側」（18番）が72.8人、「自衛隊団地30号館前（山本野里3丁目）」（15番）が49.1人、「上の池公園（安倉北3丁目）」（17番）が44.7人となっています。
- ・逆に、市北部の西谷地域（1番～4番）は、利用が低い状況になっています。

（図書館行事開催状況）（P28～P30）

- ・図書館行事開催状況については、中央図書館での開催回数は288回で前年度と同じです。新規の行事としては、「市内在住者が語る講演会」、「教えて、深谷先生、辞書引き学習会」、「琳派400年記念講演会」、「ポジティブ人間関係術」を開催しました。
- ・西図書館では、開催回数は298回となっています。前年度との比較では、前年度の「20周年記念関連行事」の89回を除く通常分では245回で、通常分と比較すると、開催回数は53回増となっています。増の内容としては、大人向け上映会が32回増、「わたしのマチオモイ貼」の関連（新規事業）が18回増となっています。

（他市図書館との比較について）（P42）

〔阪神間各市町立図書館との比較〕

- ・阪神間7市1町では人口（平成28年4月1日現在の推計人口による）や図書館数、市民一人あたり資料費が異なるため、一律の比較はできませんが、市民一人あたり貸出冊数（平成27年度実績）については、宝塚市が9.0冊であり、猪名川町、三田市、に次いで3番目となっています。また、市民一人当たり資料費（平成28年度）については、宝塚市が191円で、猪名川町、芦屋市、三田市、伊丹市に次いで、5番目となっ

ています。

- ・平成27年度の貸出冊数については、前年度と比較して、三田市以外は対前年比が増と
なっています。

〔注〕（対前年比：尼崎市が11.7%の増、西宮市が1.1%の増、宝塚市が2.7%の
増、伊丹市が2.1%の増、芦屋市が1.3%の増、川西市が0.4%の増、三田市が
2.6%の減、猪名川町が0.9%の増）

- ・人口の多い「尼崎市」〔注〕（人口：45万人余、図書館施設：2館、サービスポイント数
11）と、「西宮市」〔注〕（人口：48万人余、図書館施設：4館、サービスポイント数7）
を比較すると、人口はほぼ同じですが、図書館施設の数に差異があり、市民一人あたり
貸出冊数を見ると、尼崎市が3.38冊に対して、西宮市は7.30冊となっており、
倍以上の開きになっています。
- ・図書館の運営形態について比較すると、宝塚市の場合は、中山台分室の窓口業務を委託
している以外は直営ですが、他市町では指定管理者制度や種々の業務委託が導入されて
います。
- ・指定管理者制度については、現在、一部の館への導入が、尼崎市〔注〕（尼崎市立北図書
館）と伊丹市〔注〕（伊丹市立北分館、南分館）において行われており、全部の図書館施
設への導入が三田市において行われています。
- ・また、業務委託については、尼崎市、西宮市、芦屋市、猪名川町において行われていま
す。

〔注〕（尼崎市立中央図書館：カウンター等業務委託）、（西宮市立中央図書館・鳴尾図書館・
北口図書館：バックヤード業務委託）、（芦屋市立図書館：窓口業務委託）、（猪名川町立
図書館：窓口業務委託）

〔同規模市（人口20万人台）の市立図書館との比較〕

- ・同規模市（住基人口20万人台）の図書館との比較については、同規模市は全国で43
市あり、市民一人あたり貸出冊数の指標（平成26年度実績）の高い順に、上位の20
市の比較を統計としてあげています。
- ・宝塚市の市民一人あたり貸出冊数は、今回、8.41冊で、茨木市（13.24冊）、調
布市（11.83冊）、府中市（9.23冊）に次いで、4番目の数値になっています。
なお、前回の統計（平成25年度実績）では、本市の数値は8.29冊であり、茨木市、
調布市、府中市、佐賀市に次いで、5番目でした。
- ・上位20市のうち、兵庫県内の状況を見ると、市民一人あたり貸出冊数が、伊丹市（人
口20万2千人）では、7.66冊で6番目となっています。また、加古川市（人口2
7万1千人）では、6.14冊で10番目、明石市（人口29万7千人）では5.85
冊で、12番目となっています。なお、明石市では、図書館施設全体について、指定管
理者制度が導入されています。

(逐次刊行物について) (P 4 4 ~ P 4 5)

- ・官報等、新聞、雑誌の資料名を、平成28年3月末現在で表にしています。
- ・雑誌数は、中央図書館で合計105、西図書館で合計140となっています。
- ・なお、前年度の表にあがっていて、今年度末までの廃刊等により、今回の表にはあがっていないものは、「edu」、「歴史読本」、「what'S IN」の3点です。
また、今回、新しくあがっているものは、「&PREMIUM」、「ダイヤモンドZAI」、「プレジデントFAMILY」の3点です。
- ・「◎」の表示が「雑誌スポンサー制度」によって雑誌が提供されているものです。
平成26年10月に制度を開始して、年度末(平成28年3月末)において、中央図書館7誌、西図書館18誌、合計25誌が雑誌スポンサー制度の該当分となっています。
昨年度は、雑誌スポンサー制度により、図書館の雑誌購入費が約17万円削減でき、雑誌の追加購入や別の図書資料購入に充てることができました。
- ・なお、平成28年度4月には、昨今の経済情勢の影響等もあると思われませんが、雑誌スポンサー制度の該当分が、中央図書館3誌、西図書館10誌、合計13誌に減少したので、今後、制度の周知等に努めていきたいと考えています。

○ 返却ポイントの返却数について(資料①参照)

- ・利用者の利便性を図るため、返却ポイント(合計8箇所:サービスセンター及びサービスステーションで5箇所、総合福祉センター、ラ・ビスタ宝塚管理センター、市役所)を設置していますが、平成27年度で、合計69,751冊の利用がありました。
前年度と比較して、6,244冊(9.8%)の増となっています。

○ 休館日予約取り置きサービスについて(資料②参照)

- ・中央図書館は年間で1,285冊(うち、特別整理期間中の小計は330冊)、西図書館は、年間で1,012冊(うち、特別整理期間中の小計は484冊)となっています。

○ 「西公民館での時間外予約本受け渡しサービスについて」(資料③参照)

- ・昨年度、利用日数としては51日、利用件数としては66件で171冊の利用がありましたが、今後とも周知に努めたいと考えています。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(1)について]

- ・特になし。

(2) 「サービス向上計画(修正版)の最終案」について(資料④参照)

(事務局) (説明)

- ・ 前回の協議会（平成28年2月）で、各委員からいただいたご意見も踏まえて、今回、計画本体の一部修正を行っています。また、決裁段階において一部修正を行っています。
- ・ 計画本体以外の資料もありますが、再度、計画全体として資料を提出しています。
- ・ 今回の計画の最終案は、図書館の理想的な姿を掲げているが、計画の実施面を考えると、今後も、ハード面や人的体制が課題となる状況は続くと思われ。

[前回の協議会での意見を踏まえた修正点について]

- ・ 各委員のご意見を踏まえて修正した部分は、全部で4箇所あります。
- ・ 1点目が、「移動図書館の老人福祉施設等への巡回を検討できないか」との意見を踏まえて、計画本文1頁の「1-1-5：移動図書館（BM）ステーションの再配置」の内容に、「高齢者の利用等にも配慮し」の文言を追加しました。
- ・ 2点目が、「ICタグ導入のメリットもあげた方がいいのではないか」という意見を踏まえて、3頁の「1-6-1：貸出機・返却機の導入と人員の再配置」の内容に文言を追加し、「貸出・返却に専従する職員」とし、目的・効果の欄に文言を追加し、「また、より一層の利用者のプライバシー保護が図れる。」とした。
- ・ 3点目が、「学校図書館との連携・支援の中で、授業への支援の項目を入れた方がいいのではないか」という意見を踏まえて、「基本目標3. 子どもの読書環境を整え、読書活動を推進し、未来を支える図書館をめざします」の中で、6頁に「3-3-3：調べ学習への支援」の項目を追加しました。
- ・ 4点目が、「障害者差別解消法の施行にあたって、職員への周知、障がいをお持ちの方の意見を聞く必要があるのではないか」という意見を踏まえて、7頁の「4-6-2：障がい者サービスのPR活動、利用促進」の内容で、「障害者差別解消法による合理的配慮を踏まえた障がい者サービスの展開」を追加しました。
- ・ なお、法施行に対する本市の取り組みとしては、平成28年3月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する宝塚市職員対応要領」及び、「障がい者差別解消のためのガイドライン」が策定され、6月下旬に職員研修が行われました。

[決裁段階での修正点について]

- ・ 本市の今後の厳しい財政状況を踏まえると、施設の新設等のハード面の整備は非常に困難であると認識されるので、5月に本庁へ修正案の決裁を回した段階で、調整した結果として、1頁の「1-1-2：新中央図書館（都市核内に立地）の計画・立案」については、「1-1-2：中央図書館機能の充実」という間接的な表現に修正したので、ご了解いただきたい。
- なお、課題・問題点の欄には、「ハード面の条件整備には、財源の確保が課題である。」と記載しています。

(3) 「社会教育委員の会議からの答申」と「サービス向上計画(修正版)最終案」との比較について(資料⑤参照)

(事務局) (説明)

- ・ 前回の協議会で、答申内容について説明しましたが、答申内容がどういう形でサービス向上計画に反映されているのかという点の精査や、答申に対するご意見をお聞きする時間が前回十分とれなかったので、今回、議題とさせていただきます。
- ・ 委員のご意見をお聞きして、今後、計画の内容に追加すべき点等がありましたら、検討したいと思っています。
- ・ 今回、答申内容を基本として、その内容が計画のどの項目に関連するのかという比較の資料(資料⑤-1)を作成しましたので参考としてください。
答申内容については、前回提出していますが、今回の議論の関係上、計画との比較が必要なため、再度、同じ内容(資料⑤-2)を提出しています。
- ・ 答申内容がすべて計画に対応しているかについては、おおむね何らかの対応はしていると認識しています。

[計画策定における答申内容の検討について]

- ・ まず、答申の「①・市立図書館自身が掲げるサービス向上のうち、どのサービスに改善が必要なのかを調査等を通じて、明確化する」については、計画の改訂にあたって全体的なことを述べていると認識しています。
- ・ 改訂にあたっては、「文部科学省の基準」(注:「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、平成24年12月告示)も踏まえて、基本方針を6項目掲げて、その中に、施策の項目、今後の課題等を入れる形としています。
- ・ また、答申では、「ボランティアの育成、連携、強化」の考え方が、何か所も述べられており、計画においても、「図書館の運営ボランティアの発掘・育成」、「ボランティアの交流の場の提供」等をあげており、各種のボランティアとの連携は、今後の重要な課題だと認識しています。
- ・ なお、答申に述べられているように、図書館ボランティア登録の前に、「司書講座」を開催することについては、今後検討すべき提案だと思っています。

[「社会教育委員の会議」への説明について]

- ・ 平成28年度の第1回の「社会教育委員の会議」(平成28年6月21日開催)において、答申内容の検討状況についての説明が求められ、両館長が出席し、「サービス向上計画の修正版」(資料④)と「計画との比較の資料」(資料⑤-1)の2点の資料を提出し、説明しました。
- ・ 会議の中では、計画を実施していく段階で、定期的の実施状況を検証する場を作ること

が重要であるとの意見がありました。(資料⑤-3参照)

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(2)(3)について]

[調べ学習への支援について]

(委員)

- ・今回、サービス向上計画に追加された所で、「3-3-3：調べ学習への支援」については、学校図書館の資料を補完する幅広い資料を、市立図書館が提供することにより、児童・生徒の調べ学習を支援できるので、ありがたいと思っている。

(委員長)

- ・前回の会議で、先生が児童・生徒を図書館に連れて行って、調べ学習をすることができないかという話がありましたが、そういう時間を学校として設けることは可能ですか。

(委員)

- ・授業で調べ学習の時間はありますが、距離的なこともあり、市立図書館の近隣の学校でないと難しいと思う。

(委員)

- ・小中学校には、学校図書館ボランティアの方はおられるのでしょうか。

(委員長)

- ・小中学校では、以前から、ボランティアの方の協力を得て、学校図書館を運営しています。

[コンピュータシステムの更新について]

(委員)

- ・サービス向上計画の中で、「コンピュータシステムの更新」について記載されていますが、平成30年度の更新に関しては、決まっていることですか。また、予算面の対応もできているのでしょうか。

(事務局)

- ・コンピュータシステムについては、使用期間が、平成30年度で7年間となるので、ソフト面の更新期間が切れます。
- ・システムをリースしている会社からは、それ以上のバックアップ体制がとれないと聞いており、平成30年度の更新を目指しています。
- ・システム更新に必要な予算については、次年度に向けて、要求をしていく段階です。

(委員)

- ・ICタグの貼付により、自動貸出・返却機の導入を目指しているのか。

(事務局)

- ・現在のシステムの更新時期が来ており、更新前に、ＩＣタグを導入するかどうかの検討が必要だと認識している。
- ・ＩＣタグを導入した場合には、利用者のプライバシー保護が図れる等のメリット面も踏まえて検討したい。
- ・阪神間 7 市 1 町における、他市町の状況を見ると、ＩＣタグを導入済みなのは伊丹市のみである。また、尼崎市、西宮市はシステムの更新予定であるが、ＩＣタグの導入は行わないと聞いています。
- ・阪神間の状況を見た場合には、導入している所は限られていますが、大阪府下（近隣の北摂地域）ではかなりの自治体で導入がなされています。

(委員)

- ・サービス向上計画の中で、何カ所かで、ＩＣタグの導入のメリット面について、記載されていますが、具体的なメリット面の資料があるとわかりやすいと思う。

(事務局)

- ・現在、ＩＣタグの導入のメリット面も含めて検討中であり、更新に向けて、プロジェクト的な体制を組んでいる。

(委員長)

- ・今回の会議には、具体的なメリット面の資料を提出してほしいと思う。
- ・近隣の図書館でのＩＣタグの導入状況について、私が承知している限りでは、事務局から説明がありました阪神間の伊丹市、大阪府下（北摂地域）の他に、「京都市立右京図書館」と「福知山市立図書館」の２つの図書館で導入されています。
- ・なお、「滋賀県守山市立図書館」が、平成 3 0 年に新しくなるのに併せて、ＩＣタグが導入されると聞いています。
- ・ＩＣタグの導入については、かなりの予算が必要となるので、図書館の施設を新たに作る場合に併せて導入される事例が多いが、既存施設の蔵書に導入する場合には、財政局に、具体的なメリット面の説明が必要であると思う。
- ・図書館に配置されている職員の増が難しい状況下で、今後の図書館の効率的運営を図り、現状の人員でサービス向上を行うためには、ＩＣタグの導入の検討は必要だと思う。

(委員)

- ・ＩＣタグの導入に伴い、自動貸出・返却機を設置した場合、図書館のカウンターは無人の状態になるのか。

(事務局)

- ・自動貸出・返却機の利用により、今のカウンターに配置されている職員の人数が一部削減にはなるが、無人の状態になるのではない。機械の取り扱いに不慣れな方への対応等も行いたいし、案内等も丁寧に行いたいと思っている。また、土曜・日曜等の利用者の多い時でも、利用者へ声掛けができる余裕も生じてくるのではないかと思っている。

- ・自動貸出・返却機を利用した場合、カウンターを通さずに、貸出・返却ができ、予約本も受け取ることができ、利用者のプライバシーの保護が図れる。なお、だれにも知られることなく、利用者個人で一連の事務処理が完結する形であり、「セルフ化」とも呼べるのではないか。
- ・例えば、離婚について調べたい人が、離婚関連の本を、カウンターで顔見知りの職員に持っていく場合を想定すると、やはり持っていきづらいのではないかと思う。
- ・「セルフ化」により、自由な気分での貸出が可能になる。

(委員長)

- ・これまでは十分できていなかった点だと思いますが、フロアサービス面の充実ができ、メリットも大きいのではないか。困っている人への声掛け、一緒に本を探すなど、ソフト面のサービスもできると思う。

(事務局)

- ・カウンターの無人化を目指しているのではなく、サービスが一人一人に行きわたる形にしていきたいと思う。
- ・フロアサービスとしては、どこまで可能かわかりませんが、ホテルのコンシェルジュや、銀行等の店舗の中で業務の案内を行っている人のようなイメージを持っています。
- ・ICタグの導入について、兵庫県内の人口の多い市を見ると、神戸市ではほぼ全館に導入がなされており、姫路市では、予算がついて今後対応がなされと聞いています。なお、尼崎市や西宮市では、導入の予定は無いと聞いています。
- ・また、その他の市を見ると、伊丹市や高砂市では導入されており、明石市では来年1月の図書館の移転に伴い、導入の予定と聞いています。なお、加古川市では導入の予定はありません。
- ・兵庫県内の状況をまとめると、5つの市で、導入済または今後導入予定です。

(委員長)

- ・図書館の施設が新しくなる時に併せて導入される場合が多いが、既設の図書館にどのような形で導入するのかが課題であると思う。

(事務局)

- ・導入には予算措置が必要であるが、職員の気持ちの切り替えも必要である。
- ・大阪府下の導入状況を確認しておくと、池田市、豊中市、吹田市、箕面市、茨木市、高槻市で導入されています。

(4) 利用者の意見等について

(事務局) (説明)

- ・「広聴カード」については、住所氏名が明記されたものについて回答していますが、今回、該当案件はありません。

- ・「御意見箱の御意見」への回答分としては、今回、合計4件（中央図書館3件、西図書館1件）となっています。
- ・中央図書館に対しては、「メール情報へのお願い」、「雑誌の種類とリクエスト」、「ナンバー貸出遅延（予約1番で当日かりれなかったこと）」の3件です。
- ・西図書館に対しては、「読書通帳の設置について」の要望があがっています。
- ・詳細については、資料をご覧ください。（資料⑥参照）

（5） 情報提供について

（事務局）（説明）

〔広報たからづか掲載分について〕（資料⑦参照）

- ・3月号、6月号では、中央図書館の「聖光文庫の展示関係」、4月号では、中央図書館の「演奏と歌と演奏体験」、5月号では、「旧松本邸の公開」と「マチ文庫の作品展」、6月号では、「移動図書館すみれ号の紹介」、7月号では、「マチ文庫を作る入門講座」について、掲載しています。
- ・詳細については、資料をご覧ください。

〔新聞記事等の関連記事について〕（資料⑧参照）

- ・本市関係では、中央図書館の聖光文庫の展示関係、旧松本邸の公開などです。
- ・近隣の情報としては、西宮市、伊丹市、尼崎市、三田市、芦屋市、神戸市、明石市、県立図書館の順に掲載しています。
- ・「尼崎市の年間貸出冊数を増やす取り組み」（④－(4)）、「西脇市図書館の新設」（⑨－(1)）などが挙がっています。
- ・詳細については、資料をご覧ください。

（委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明）

〔議事（4）（5）について〕

- ・特になし。

（6） 平成28年度事業について

（事務局）（説明）

（ア） 阪急逆瀬川駅周辺における返却ポイントの設置について

- ・平成23年6月から中央公民館内に返却用ブックポストを設置していましたが、中央公民館の建て替えに伴い、平成26年10月以降、逆瀬川駅周辺に返却ポイントが無い状

況が続いており、これまで代替の設置場所を検討しておりました。

- ・逆瀬川駅周辺には公共施設が無いので、商業施設等にも打診した結果、今回、「コープ宝塚」に協力いただき、10月から返却用ブックポストを無料で置かせてもらう方向で調整しています。

(イ)「みんなの たからづか マチ文庫 2016」について (別冊資料参照)

- ・「マチ文庫」については、市民のみなさんに、「宝塚」のまちの小さな歴史や小さな発見などを一冊の本(作品)にして、PRして公開していこうという取り組みです。
- ・2015年に作品を募集したところ、応募作品が27作品あり、今年度、6月4日に発表会を行いました。作品には、最初にスタッフがサンプル的に作ったものもありますが、市民の方が作られたものの中には、「寿楽荘のさくら」として、昔からの桜の風景をまとめたもの等もあり、さまざまな工夫がされています。なお、応募作品については、現在、貸出もしています。
- ・今年度も、「自分の本を作るための入門講座」を開催し、作品を募集しており、受講してもらえれば、本が出来上がるという取り組みです。なお、講師には、市内に住んでいる方や宝塚市になんらかの形で関わっている方に、お願いしています。

(ウ) 第6回読書講演会について

- ・今年度の読書講演会については、村田喜代子氏を講師に招いて、平成29年1月14日(土)に、ベガ・ホールで開催する予定です。詳細については、内容が決まり次第、案内をさせていただきます。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(6)について]

[マチ文庫について]

(委員長)

- ・「マチ文庫」の取り組みのアイデアはどこから生まれたのですか。

(事務局)

- ・図書館職員のアイデアからスタートしています。

(委員)

- ・「マチ文庫」の作品を見ると、宝塚にこんな魅力があるのかという思いがする。
- ・小中学生にも知ってもらえると、自分の町を調べてみようという興味が湧き、図書館に足を運ぶきっかけになると思うので、学校へのアピールもしてはどうか。

(事務局)

- ・小学校から、「マチ文庫」をもらえないかとの打診があり、1校にさしあげた事例はあります。

(委員長)

- ・高校に配布すれば、若い世代が関心を持ってくれるのではないかな。

(7) 意見交換等について

[マチ文庫の利用について]

(委員)

- ・高校では、3年生で地域学習の時間があり、市内の先生が作った教材の冊子には、「宝来橋」の写真が載っているが、「マチ文庫」の資料であれば、昔からの経緯がもっとよくわかるのではないかなと思う。

(委員長)

- ・学校の教科の指導にも、「マチ文庫」の写真等は使えると思う。担任の先生からの希望があれば利用は可能ですか。

(事務局)

- ・市民の方が作成されたものは、作成者の了承が必要だと思う。

[中央図書館の雑誌コーナー等について]

(委員)

- ・中央図書館の1階のカウンターの手前で、入口側から見て左側に、これまで高い雑誌コーナーがありましたが、最近見ると、オープンな雰囲気になって良くなっていると感じました。いつ頃、レイアウトが変わったのでしょうか。

(事務局)

- ・これまで高い雑誌架が置いてあって、カウンターから玄関が見渡せない状態であったので、2月頃に、レイアウトを変更し、カウンターから見える形にしたことによって、雰囲気はかなり変わりました。また、椅子も更新し、ゆったりとできる雰囲気としました。

(委員)

- ・雑誌コーナーの雰囲気が良くなったことについて、利用者にも知ってもらう必要があり、ホームページ等でPRしてはどうか。

(事務局)

- ・雰囲気が良くなったという意見は、利用者からも聞いています。
- ・なお、図書館行事等のPRのため、図書館入口を入れてすぐ右側に「デジタルサイネージ」(ディスプレイ)を置いています。利用者に気づいてほしいと思っていますが、画面が入口とは逆の動線に設置されているので、帰る時に気づく場合が多い。

[郷土資料コーナー、団体貸出等について]

(委員)

- ・以前の会議で、図書館に「郷土資料等のコーナー」があるということを聞いていましたので、中学校への転入生に、宝塚のことを知るためには、図書館に一度行ってみたいかどうかという話をしました。その後、図書館へ行ったかを確認しましたが、行っていないということでした。
- ・学校への団体貸出について、一つのテーマ（例えば、戦争について）で、一定の冊数を借りたとしても、内容にはバラツキが出てくると思う。
- ・学校の国語の授業で、「古語辞典」をクラスの人数分40冊使いたいと思ったが、学校には無かったので、図書館から借りたいと考えたが、図書館にも無い状況でした。学校の先生の希望に図書館が応えることができるかという点、少し違う面がある。

(委員長)

- ・転入生が図書館に行かなかった理由も聞いてもらえると、対応方法も考えられる。
- ・おそらく、図書館までの距離的な問題があって、行かなかったのではないかと思う。

(事務局)

- ・若い世代が図書館を利用する場合、閲覧室には来ているが、開架室にはなかなか降りて行かない状況がある。図書館としても、実際に、中高生に足を運んでもらう努力はしているが、なかなかうまくいっていない。
- ・昨年度、演劇集団キャラメルボックスの方を講師として、若者向けの講演会を行いました。が、高校の演劇祭と日程が重なったこともあって、若者の参加は少なかった。なお、高校にはチラシを配ってもらうことの協力はお願いしました。

(委員長)

- ・今後も、高校とは事前に調整等をした方が、多くの参加が見込めるのではないかと思う。

(事務局)

- ・郷土資料の調査に関しては、市内の私立の中学生・高校生が、学校から地元のことを調べるといった課題が出されて、図書館に調べに来ていることがあった。
- ・市内の公立の学校では、授業でそういう課題が出されないのではないか。

(委員長)

- ・子どもと図書館を結びつける仕組みに取り組んでほしいと思う。

[ヤングアダルトコーナーについて]

(事務局)

- ・三田市立図書館の事例ですが、ヤングアダルトコーナーについて、図書館のすぐ隣の私立高校の図書部とタイアップして、運営等が行われている。
- ・本市でも、ヤングアダルトコーナーを設けているが、図書館サイドで運営している。今後は、三田市立図書館のように、可能であれば、市内の高校と連携する方向を考えた

いと思っています。

- ・市内の高校のホームページを見ると、学校図書館で、お薦め本のコーナーの取り組みがされている学校もありましたので、図書館と何らかの連携ができないかと思いました。

(委員)

- ・市内の県立高校4校各校ごとの「お薦め本のコーナー」というようなイメージになるのではないかと思う。
- ・各学校には図書委員会があるので、そういう所で、声掛けをしてみてもどうかと思う。また、阪神間で集まる機会があれば、情報収集等を行いたい。

(事務局)

- ・生徒の気持ちがどんな状況なのかを知りたいと思う。
- ・また、前向きな対応が可能であれば、学校長や先生のご理解を得て、協議に伺いたいと思っています。

[展示について]

(委員)

- ・図書館では、テーマごとに一定期間の展示が行われていますが、ヤングアダルトコーナーを図書館以外の人に関与するという発想と同様の観点から、図書館以外の人が展示の企画ができないかと思っています。

(事務局)

- ・どういう方なのかわからない個人が企画するというのは、不安な部分がある。

(委員)

- ・展示を、例えば1カ月のローテーションにして、事前に企画書を出すという方法はどうでしょうか。

(事務局)

- ・今まで、図書館以外の人による企画展示というのは実施していないので、個人的には、少しハードルがあると感じています。

(委員長)

- ・図書館の本を利用して、例えば、中国の子どもたちの様子が書かれた本の展示や、絵本作家の展示を特別展示で行う形などはどうでしょうか。

(事務局)

- ・例えば、作家の方のこういう本を紹介できないか等について、図書館に相談してもらえば、検討したいと思う。その際、売名行為的なものは好ましくないのではないかと。
- ・高校との連携ができれば、例えば、市内の高校の図書部のお薦め本等のタイトルで展示することもできると思う。
- ・展示の中身は自由に企画してもらっていい。イラスト等を書くのが好きな生徒もいると思う。

(委員)

- ・高校生は、クラブ活動は熱心にやっているが、委員会活動は自主的な参加であり、どこまでの連携ができるかはわからない部分がある。
- ・三田市立図書館と近隣の学校との連携の話をお聞きして、図書委員会の先生も熱心に対応されているのではないかと思います。

(委員長)

- ・学校との連携についても、図書館側から声をあげていって、応じてくれるところがあれば、中高生との連携につながっていくと思う。

[ビブリオバトルについて]

(委員)

- ・以前勤務していた西宮市内の高校では、本好きの子どもたちが多くて、校内でビブリオバトルをやっていましたが、宝塚市ではどうですか。

(事務局)

- ・一度やってみたい企画であると思っておりますが、本市では実施できていません。

(委員長)

- ・近隣では、伊丹市が実施していて、川西市も昨年からは実施しています。
- ・ビブリオバトルについては、中高生に図書館へ来てもらうきっかけになるし、中高生の読書の機会が増えることにもなるので、検討されてはどうか。

(事務局)

- ・ビブリオバトルの趣旨は理解できますので、今後、検討したいと思います。

[マチ文庫のPRについて]

(委員)

- ・マチ文庫の普及について考えると、PDF化してアーカイブしていく方向や、説明会についても動画で見られるようにしておくと思う。また、ビデオで補うことも考えたら良い。
- ・できた作品を広く使ってもらえるようにするために、「クリエイティブ・コモンズ」の利用も検討されてはどうか。なお、この取り組みは、商業利用はできない形になっています。

(事務局)

- ・今年度の作品の募集要項の注意事項で、「今後の展開として、電子書籍貸出サービスの対象となることがあります。」という記載をしています。

(委員)

- ・他の資料を使う場合の著作権については、どうなっていますか。

(事務局)

- ・著作権の保護期間が満了しているものはいいのですが、著作権の保護期間内の場合は、著作権者に承認を得る必要があります。二次的な利用の場合は、著作権者の没後50年間で著作権保護期間とされています。
- ・自分で撮られた写真はいいのですが、新聞記事については、新聞社に連絡すると、使用料を請求されることもあると聞いています。

(委員長)

- ・確かに、最近、著作権について厳しくなっていると感じていますが、調整していただいて、いい形での利用ができればと思っています。

(8) 次回の開催について

(委員長)

- ・事務局の案について、説明してください。

(事務局)

- ・平成23年度から年3回の開催という形で、回数を1回増やしています。
- ・これまで、2回目の会議を、図書館の現場を見るという観点から、先進地視察や本市図書館の巡視を行って来ており、昨年度は、福知山市立中央館を視察しました。
- ・事務局案としては、本市では、コンピュータシステムの更新を控えていますので、ICタグを導入している図書館を視察できればと考えています。時期としては、10月頃を予定しています。
- ・委員のご意見をお聞かせください。

(委員長)

- ・他に意見が無いようですので、事務局案で詳細を調整してください。

[5] 閉会あいさつ

(社会教育部長)

- ・市の財政状況は、今後も厳しい状況が予想されますが、今回策定した「図書館サービス向上計画」の実施に努め、いろんな世代の市民に親しめる図書館にしていきたいと思う。